

GX 実行会議へのコメント

伊藤元重

事務局のメモに示されているように、GW 実行戦略でこれまで議論してきたことが着実に進捗していると評価している。そうした一方で、「エネルギーの安定供給・経済成長・脱炭素」の中で特にエネルギーの安定供給の緊急性が高まっている点に注目したい。エネルギーの安定供給を実現する上で日本が抱えている課題が事務局のメモでも取り上げられているが、今後さらに検討が必要だろう。

GX 実行会議のこれまでの議論では制度設計や理念の確認が大きな部分を占めていたが、今後は具体的な投資活動や産業構想の変化の動きなどに焦点が移っていく。今回の事務局のメモにも具体的な動きの事例が紹介されているが、今後より詳細な分析が提供されることを望みたい。こうした中で進捗の遅れが見られる分野については踏み込んだ検討が求められる。例えば、洋上風力発電の進捗などはどう評価できるのだろうか。

成長志向型カーボンプライシングについては、いよいよ排出量取引制度が本格的に開始される。この制度によって日本の温室効果ガス削減の流れがさらに強まることが期待したい。

トランプ政権によるパリ協定からの離脱の影響などもあり、産業界や国民の GX に対する関心が少し弱まっているということを感じる。事務局メモにもあるように、GX を進めていくことはエネルギーの安定供給や経済成長にも資するものである。GX を推進していくことの意義を再度確認する必要がある。